

選定物件

世界遺産一覧表への記載に向けて我が国として今年度推薦することが適当と思われる物件として、「百舌鳥・古市古墳群」を選定する。

選定理由

文化審議会としては、推薦内容の熟度が十分に高く、世界遺産委員会及びイコモス（世界遺産委員会の諮問機関）の専門的・学術的な審査に耐えうると判断した物件を、推薦案件として選定してきた。

この考え方に照らした場合、今年度の選定候補となっている3件についてはいまだ大きな課題を抱えていると言わざるを得ない。しかし、世界遺産一覧表への着実な記載を目指していく上では、年1件の文化遺産の審査枠を有効活用し、推薦後の審査・評価次第では、その指摘に応じて推薦内容を抜本的に見直すことも視野に入れて、推薦案件を選定するというのも有力な選択肢であると判断する。

以上を踏まえ、今年度の推薦案件については「世界文化遺産推薦書の準備状況を判断する際の観点」（平成29年4月24日文化審議会世界文化遺産部会決定）に照らし、顕著な普遍的価値が認められ得ると考えられ、かつ推薦内容の検討状況が現時点で相対的に最も進んでおり、また推薦後の審査・評価を推薦内容の見直しに反映させる余地が大きいと考えられる「百舌鳥・古市古墳群」を選定する。

「百舌鳥・古市古墳群」について

1. 名称

「百舌鳥・古市古墳群」“Mozu-Furuichi Kofun Group”

2. 所在地

大阪府 堺市・羽曳野市・藤井寺市

3. 概要

百舌鳥・古市古墳群は、百舌鳥および古市の2つのエリアに分布する古墳、すなわち日本列島独特の古代墳墓49基45件によって構成される。両エリアは、日本列島の中央部に位置する現在の大阪府に所在する。この地域は、古代日本の政治・文化の中心地の一つであり、東アジア海上交易の終着点にあたる交流の窓口でもあった。

資産は古墳時代の最盛期にあたる、4世紀後半から5世紀後半にかけて築造されたものである。日本列島における古代王権の形成期は、日本史では古墳時代とよばれ、総数16万基以上に及ぶ多数の古墳の築造により、個人の権力の大きさと相互の格差が目に見える形で示されたことを大きな特徴とする。

ここに密集した古墳は、前方後円墳、帆立貝形墳、円墳、方墳という4種類の墳形をもち、規模も400m以上から20m程度まで著しく幅広い。これらのうち大規模な古墳は、鍵穴形の前方後円墳であり、古代日本の王の墓と考えられる列島最大級のものを多数含む。このような王墓が集中的、継続的に築造された両エリアは、列島各地の古墳の形式と築造技術のモデルとして重要な位置を占め続けた。各古墳は、墳丘上面の随所に葺石や埴輪などの装飾を施しており、墳頂部から構築された埋葬施設を中心とする葬送儀礼の舞台として特異な外観を発展させたものである。

本資産は、古墳時代の文化の傑出した物証となる古墳の顕著な見本であり、その価値は密集した多様な古墳、標準化された型式、原位置にある葬送儀礼の証左という属性によって伝えられる。

「百舌鳥・古市古墳群」構成資産



百舌鳥エリア

古市エリア

